

## 第四回定例会

### ・工事請負契約

標茶中茶安別線道路改良舗装工事で、改良延長一、五〇〇メートル、全幅員六メートルでの工事費一億八、三二二万五千円が提案され、議会はこれを議決しました。

### ・教育委員の任命

町長から三本雅一氏を教育委員に任命する旨の提案がされ議会はこれに同意しました。

### 議員研修

平成二十二年十月二十一日と二十二日の2日間、釧路管内町村議会議員研修会が開催され、標茶町議会議員も参加しました。  
内容は次のとおりです。  
場所・弟子屈町川湯  
川湯観光ホテル

### 講演

「道東ドクターヘリ運航

一年を振り返って」  
市立釧路総合病院  
救急救命センター長  
其田 一氏

### 講演

「これからの地域づくりの可能性」生活当事者が新しい公共を創る」  
北海道大学大学院教育学研究院 附属子ども発達臨床研究センター  
助手 日置真世氏

### 講演

「議会改革と議会の諸相」  
北海道町村議会議長会  
事務局長 勢旗了三氏



# 委員会報告

## 総務委員会

### 調査事項

行財政改革の進捗について

### 調査日

平成二十二年六月八日  
平成二十二年十一月十七日

### 調査場所

標茶町役場 議員室

### 調査内容

行財政改革の進捗について

(平成二十二年六月八日)  
第二期行政改革実施計画

実績に係わる参考資料に基づき説明を受け、各委員から質疑を行った。

第二期行政改革実施計画(平成十五年度から平成二十二年年度)に基づく七年

間の実績を金額で示すと、

述すべきである。

行政改革による住民不利益があつてはならない。行政改革は単なるコスト削減ではない。

行政改革の側からのみならず、住民側が行革の役割を果たしたり、住民と一緒に行政改革を進めていく体制が必要であり、行政改革についての住民の役割も考える必要がある。

協働の点では、受益者も努力をしていく計画があつてもよい。文字どおり自律と協働のまちづくりの行革にしていく必要がある。そのため、パブリックコメントの導入を早めに進めるべきである。また、すべての町民を対象にする意味でも、高齢化にも対応できるように、広報紙やホームページだけでなく、新しい情報基盤の活用を図り、テレビ等の中で情報の共有を進めることも必要である。



厚生文教委員会

調査事項

やすらぎ園の現状と今後の課題について

ごみ処理施設の現状と今後のあり方について

調査日時

平成二十二年二月一日  
平成二十二年五月十七日  
平成二十二年八月三十一日  
九月二日  
平成二十二年十一月八日

調査の経過と内容

やすらぎ園の待機者は町内外合わせ百名以上いるが、待機者の半数以上は自宅で生活し、それ以外の方は医療機関や介護施設に入所している状況である。町内にグループホームが二施設あるが解消策として第三の施設が設置できないか、又、新たな施設は指定管理者制度や公設民営で運営の施設等の調査が必要と確認した。

本町のごみ処理施設の耐用年が目前に迫っている状況である。将来的に一般家庭や事業所等から出る燃やせるごみを固形燃料にできないか、バイオマス燃料化実施の先進地調査が必要と確認した。

「スティック」等の廃棄物を新処理技術で燃料化し町内の公共施設等で化石オイル代替燃料として活用し、「ごみを加工して使う」ことでリサイクル率の向上や最終処分場の延命、将来的にごみ処理事業費全体の削減も期待できることから、新たな処理技術導入について第四期総合計画に位置づけ検討すべきと考える。

調査の経過及び委員会の所見

やすらぎ園入所待機者の解消策で町立病院の空きベッドの活用、やすらぎ園に併設か単独の30床程度の介護老人保健施設も検討すべきである。介護・医療施設等の運営は将来的に直営での運営は人件費やコスト面の削減が不可欠であり、受付、会計、経理事務を医療コンサルタントに委託や指定管理者の導入、公設民営に移行するなど介護・医療施設事業費全体の効率的な運営を図る観点から早急に検討すべきと考える。

今後のごみ処理のあり方として「生ごみ、食品残渣、紙類、廃材、農業用廃プラ

産業建設委員会

調査日時

平成二十二年八月二十六日  
平成二十二年十一月十六日

調査事件

(1)家畜防疫体制について

調査の経過及び調査結果  
標茶町家畜自衛防疫連絡協議会での家畜伝染病防疫マニュアルと標茶町における口蹄疫発生時の初動防疫対策シミュレーションについて説明を受け質疑を行った。

た（平成二十二年十一月十六日）  
本町独自の新たな口蹄疫防疫対策マニュアルの原案について説明を受け質疑を行った。  
本町の防疫マニュアルとは、特徴的なのが育成牧場の預託牛などの防疫対策が盛り込まれている事であるが、今後預託牛の受け入れ時の移動対策などさらに検討を進める必要がある。

本町独自の新たな口蹄疫防疫対策マニュアルの原案について説明を受け質疑を行った。

本町の防疫マニュアルとは、特徴的なのが育成牧場の預託牛などの防疫対策が盛り込まれている事であるが、今後預託牛の受け入れ時の移動対策などさらに検討を進める必要がある。

本町独自の新たな口蹄疫防疫対策マニュアルの原案について説明を受け質疑を行った。

本町の防疫マニュアルとは、特徴的なのが育成牧場の預託牛などの防疫対策が盛り込まれている事であるが、今後預託牛の受け入れ時の移動対策などさらに検討を進める必要がある。

委員会の所見

本年四月に宮崎県で発生した口蹄疫は、これまで国内においては過去最大の家畜の被害と周辺地域はもちろんのこと、社会、経済に多大なる損害を与えた。あらためて口蹄疫（伝染病）の恐ろしさを思い起こさせる事となった。

口蹄疫発生後の本町の防疫対策については、自防協を中心として国、道からの指示によるものや独自対策などの必要な措置を行った。

本町においては、育成牧場が道外からの乳牛の受け入れを行っており、移入禁止に当たっては、本会議においても様々な議論がされたが、基幹産業である農業を守ることを最優先すべきである。

今回、標茶町としての口蹄疫防疫対策マニュアル案が示され、今後関係機関との調整を行い精査されることとなり一定の体制が整ったと思われるが、さらに終息に向けての手続きや判断基準を明確にすることや、本町は一戸あたりの経営規模が大きいことから、万が一発生した場合の発症牛の処理方法、乳牛の処分や冬期間の問題など現実的な対応策も検討すべきである。





第四回定例会 議会各口話から

九月二十九日 議会運営委員会

十月一日 広報調査特別委員会

十月四日 広報調査特別委員会

十月五日 広報調査特別委員会

十月十二日 広報調査特別委員会

十月十五日 広報調査特別委員会

十月二十一日  
～二十二日 釧路町村議会議員研修会

十月二十六日 議会運営委員会

十月二十七日  
～二十八日 平成二十一年度標茶町各会計  
決算審査特別委員会

十月二十八日 第三回臨時会

十月二十八日 標茶町第四期総合計画に関する  
調査特別委員会

十月二十八日 議会運営委員会

十一月八日 厚生文教委員会所管事務調査

十一月十六日 産業建設委員会所管事務調査

十一月十七日 総務委員会所管事務調査

十一月十九日 標茶町第四期総合計画に関する  
調査特別委員会

十一月十九日 議会運営委員会

十一月二十五日 議会運営委員会

十一月二十六日 第四回臨時会

十一月二十六日 釧路北部消防事務組合議会第  
三回臨時会

十二月三日 議会運営委員会

十二月七日  
～八日 第四回定例会



TPP参加阻止釧路地区決起大会

お詫びと訂正します

「議会だより」七十八号八ページの有害鳥獣駆除の実施隊出動の内容が、「シカ67頭、キツネ1頭、クマ56頭、カラス20羽」になっていますが「シカ67回、キツネ1回、クマ56回、カラス20回」ですのでお詫びして訂正いたします。

編集後記

第三回臨時会では本町の今後十年間の、標茶町第四期総合計画に関する調査特別委員会が設置され、三月定例会までに調査報告するべく調査を進行中です。第四回定例会では、再任された、池田裕二町長の「町民が主役、主体のまちづくりの更なる前進」をとの町政執行方針が発表されました。多くを期待するところであります。

また、平成二十一年度標茶町各会計決算を、原案どおり認定しました。一般質問三名四件、予算審議では五名十九件の活発な総括質疑を行いました。

さらに、私たちの暮らしにかかわりのある三件の意見書を採択しました。

どうぞお読みになり、町民皆様のご意見、お考えをお聞かせ下さい。

田中 敏文